

令和 6 年度 高松市病院事業会計決算見込みの概要

病院局



1. 令和6年度決算の概要

(1) 前年度比較

決 算	令和 6 年度 A	令和 5 年度 B	前年度比較 A - B	
			増 減	増減比率
決 算 規 模 (税込)	119.4 億円	116.0 億円	3.5 億円	3.0 %
みんなの病院	114.4 億円	109.2 億円	5.2 億円	4.8 %
塩 江 分 院	5.0 億円	6.8 億円	▲ 1.8 億円	▲ 25.9 %
経 常 収 支 (税抜)	▲ 7.7 億円	▲ 0.4 億円	▲ 7.3億円	▲ 1,951.2%
みんなの病院	▲ 7.7 億円	0.1 億円	▲ 7.8億円	▲ 9,713.3%
塩 江 分 院	0.0 億円	▲ 0.5 億円	0.5億円	108.8%

※以下、四捨五入の関係上、各表間の計数、増減率等が一致しない場合がある。

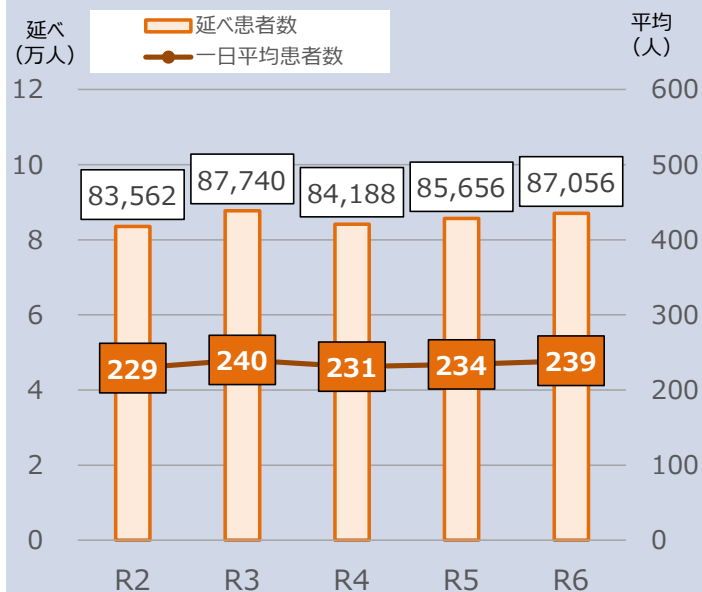
(2) 決算のポイント

- **決算規模**（収益的支出及び資本的支出の合計）は、塩江分院の入院休止に伴う給与費や経費の減少があったものの、みんなの病院の人件費や物価高騰に伴う材料費・経費の増加、みんなの病院の資産購入費の増加などから、**3.5 億円の増**
- みんなの病院の**経常収支**は、入院収益がやや減少したことに加え、一般会計負担金が減少したことや、給与改定による人件費の増加、物価高騰に伴う材料費・経費の増加などにより5年度に比べ**7.8 億円悪化し、7.7 億円の赤字**
- みんなの病院の**入院・外来収益**は、入院・外来とも患者数が増加した一方、入院の診療単価がやや減少したことから、5年度と同程度の**70.5 億円（+0.03%）**
- **一般会計繰入金 18.4 億円（▲19.5%）**は、救急医療の確保に要する経費及び建設改良に要する経費の減などに伴い**4.5 億円の減少**
- **現金残高**は、5年度比**4.9 億円減の37.0 億円**

2. 業務の状況①（患者数）

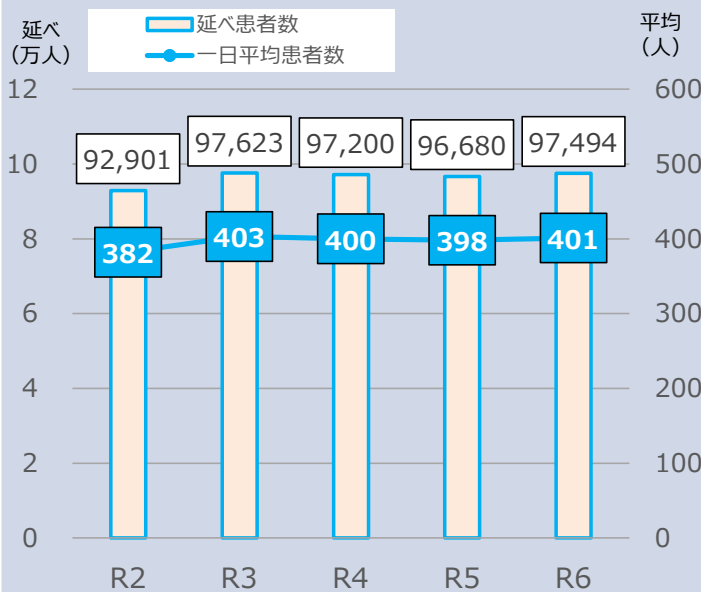
みんなの病院

入院



整形外科や循環器内科の患者数が増加したことなどから、延べ入院患者数は、1.6%増加した。
 (R1延患者数 91,160人、
 対R1比：▲4.5%)

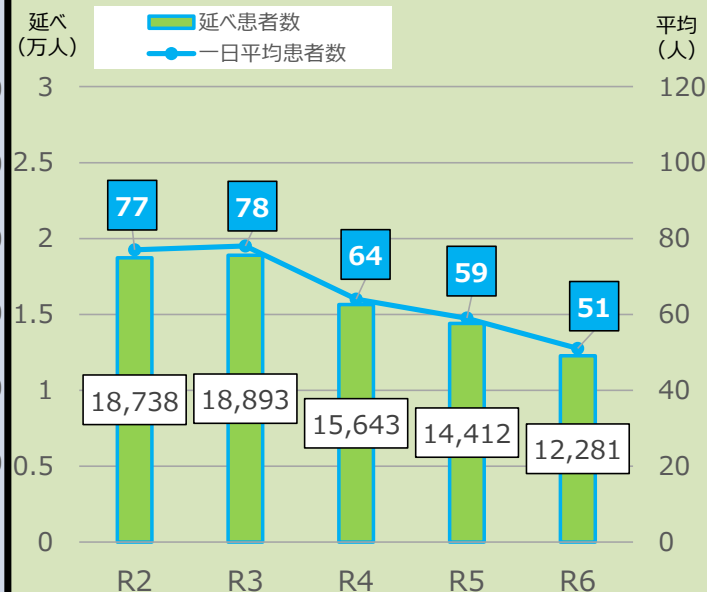
外来



整形外科や耳鼻咽喉科、産婦人科の患者数が増加したことなどから、5年度に比べ0.8%増加した。
 (R1延患者数 102,374人、
 対R1比：▲4.8%)

塩江分院

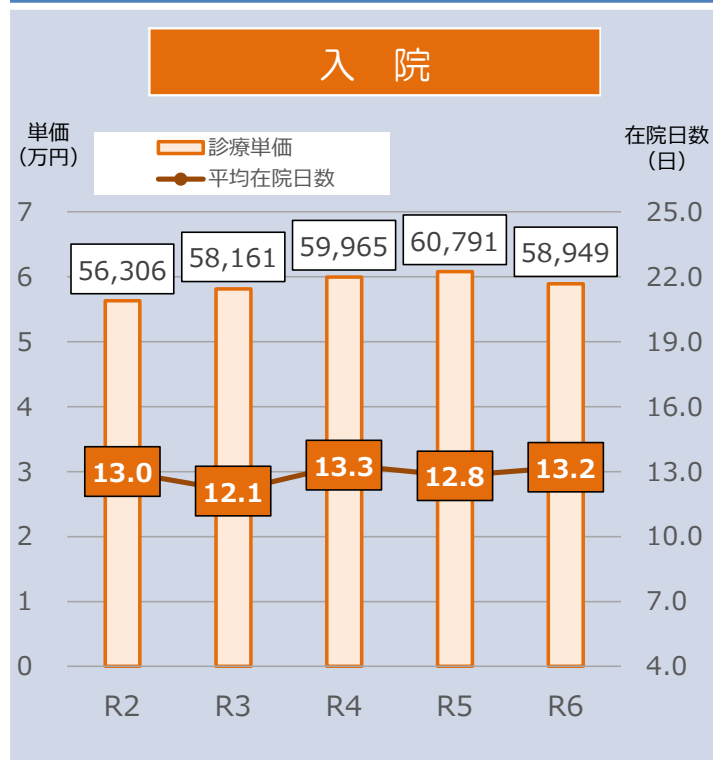
外来



圏域内の人口減少と、高齢化に伴う施設への入所や交通弱者の増加など、複合的な要因により、14.8%減少した。
 (R1延患者数 21,089人、
 対R1比：▲41.8%)

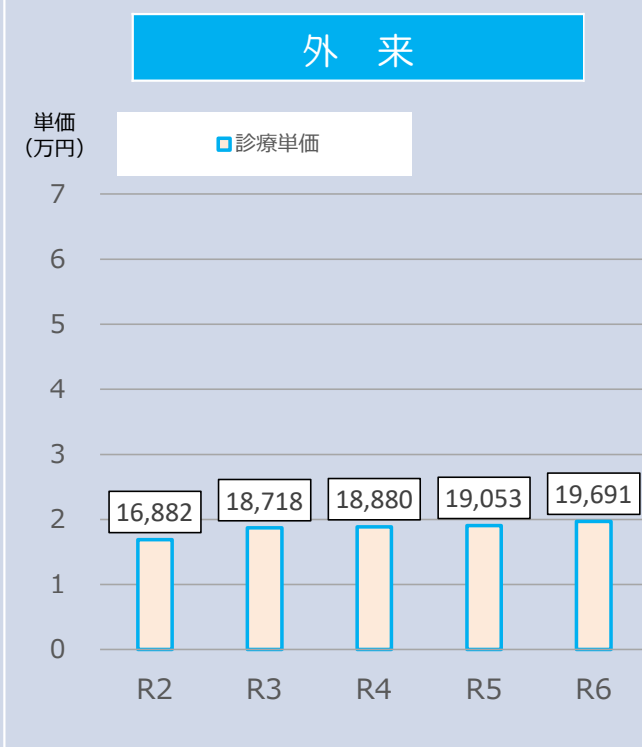
2. 業務の状況②（診療単価）

みんなの病院



単価の高い新型コロナウイルス感染症の治療が5年度では多かったことや、がん治療のうち、高額な診療が減少したことなどに伴い、入院単価が3.0%減少した。

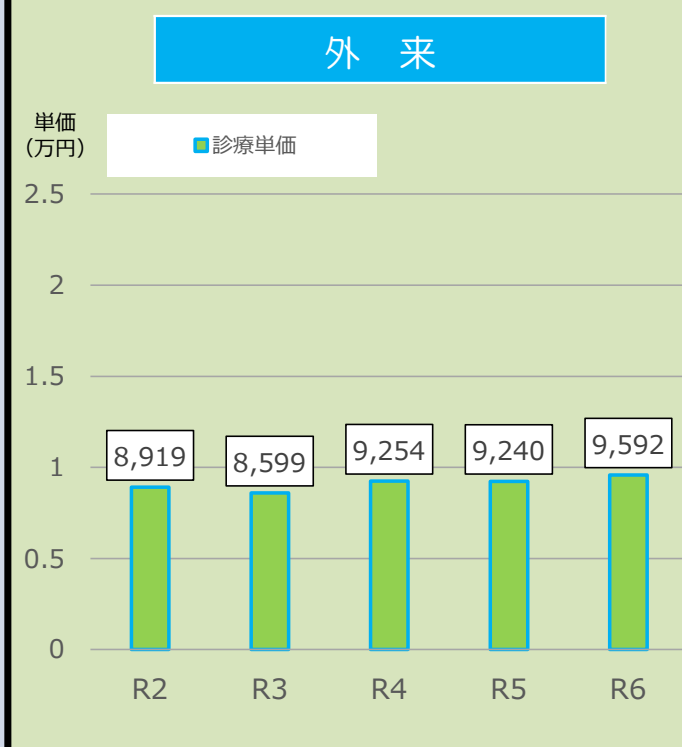
外 来



がん治療などの高額な診療が増えたことなどから、外来単価が3.3%増加した。

塩江分院

外 来



生活習慣病を主病とする患者に対する指導を積極的に実施したことなどから、外来単価が3.8%増加した。

3. 収益的収入及び支出（税抜き）

（1）みんなの病院

単位：百万円

区 分	R 6	R 5	前年度増減比較		主な増減理由
			金額	率	
収益（みんなの病院）	9,258	9,445	▲ 186	▲ 2.0%	
医業収益	7,763	7,989	▲ 227	▲ 2.8%	
うち入院収益	5,132	5,207	▲ 75	▲ 1.4%	患者数 85,656人 → 87,056人 診療単価 60,791円 → 58,949円
うち外来収益	1,920	1,842	78	4.2%	患者数 96,680人 → 97,494人 診療単価 19,053円 → 19,691円
うち一般会計繰入金	379	621	▲ 242	▲ 39.0%	救急医療の確保に要する経費 ▲ 242,483千円
医業外収益	1,447	1,431	16	1.1%	新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金 ▲ 186,449千円、 長期前受金戻入 + 62,296千円、寄付金 + 101,000千円
うち一般会計繰入金	726	692	34	4.9%	感染症医療に要する経費 + 43,670千円、基礎年金拠出金に係る経費 + 5,905千円、 高度医療に要する経費 ▲ 13,409千円
特別利益	49	24	25	101.0%	解体に係る一般会計負担金 + 22,345千円
費用（みんなの病院）	10,025	9,532	493	5.2%	
医業費用	9,589	9,041	548	6.1%	
うち給与費	4,853	4,561	292	6.4%	給与 + 198,882千円、退職給付引当金繰入額 + 44,460千円
うち材料費	1,912	1,789	123	6.9%	診療材料費 + 94,922千円、薬品費 + 31,583千円
うち経費	1,540	1,414	127	9.0%	貸倒引当金繰入額 + 53,639千円、報償費 + 13,002千円、 委託料 + 21,820千円
医業外費用	393	371	22	5.8%	雑損失 + 23,336千円
特別損失	43	120	▲ 77	▲ 64.2%	過年度損失修正損 ▲ 53,263千円
当年度純損益	▲ 766	▲ 87	▲ 679	▲ 777.1%	
経常損益（特利・特損を除く）	▲ 772	8	▲ 780	▲ 9,713.3%	

3. 収益的収入及び支出（税抜き）

（2）塩江分院

単位：百万円

区 分	R 6	R 5	前年度増減比較		主な増減理由
			金額	率	
収益（塩江分院）	394	613	▲ 219	▲ 35.7%	
医業収益	123	186	▲ 63	▲ 33.9%	
うち入院収益	0	47	▲ 47	皆減	患者数 2,766人 → 休止 診療単価 16,818円 → 休止
うち外来収益	118	133	▲ 15	▲ 11.5%	患者数 14,412人 → 12,281人 診療単価 9,240円 → 9,592円
医業外収益	256	345	▲ 89	▲ 25.9%	
うち一般会計繰入金	249	338	▲ 90	▲ 26.5%	不採算地区病院の運営に要する経費 ▲ 60,797千円 退職給与の負担に要する費用 ▲ 37,924千円
附帯事業収益	15	16	▲ 1	▲ 9.0%	訪問看護利用者 1,800人 → 1,785人（▲ 15人）
特別利益	0	65	▲ 65	▲ 99.7%	退職金引当金戻入益 ▲ 64,999千円
費用（塩江分院）	495	594	▲ 99	▲ 16.6%	
医業費用	355	559	▲ 204	▲ 36.5%	
うち給与費	228	401	▲ 173	▲ 43.2%	給与 ▲ 106,257千円、退職給付費 ▲ 50,818千円
うち材料費	45	53	▲ 8	▲ 15.2%	薬品費 ▲ 4,312千円、給食材料費 ▲ 2,263千円
うち経費	67	90	▲ 23	▲ 25.9%	報償費 ▲ 9,430千円、委託料 ▲ 8,829千円、燃料費 ▲ 4,405千円
医業外費用	11	13	▲ 2	▲ 16.7%	雑損失 ▲ 2,776千円
附帯事業費用	24	21	3	15.0%	給与費 + 3,090千円
特別損失	106	1	105	7,425.9%	附属医療施設の建設地変更に伴う損失 + 105,391千円
当年度純損益	▲ 102	18	▲ 120	▲ 652.3%	
経常損益（特利・特損を除く）	4	▲ 45	49	108.8%	

4. 資本的収入及び支出（税込み）

（1）みんなの病院

単位：百万円

区 分		R 6	R 5	前年度増減比較		主な増減理由
				金額	率	
収入（みんなの病院）		981	896	85	9.5%	
企業債		512	273	239	87.5%	医療備品購入費の増加（全身用X線CT装置、注射薬自動払出装置など）
負担金交付金		462	618	▲ 156	▲ 25.2%	企業債償還に対する一般会計負担金の減少 ▲ 157,932千円
固定資産売却益		7	0	7	皆増	全身用X線CT装置の売却益 + 7,004千円
補助金		0	5	▲ 5	皆減	県補助金の減（自動遺伝子解析装置）▲ 5,170千円
支出（みんなの病院）		1,395	1,364	31	2.2%	
建設改良費		517	280	237	84.5%	
	資産購入費	517	280	237	84.5%	医療備品購入費の増加 + 236,788千円（全身用X線CT装置165,000千円、注射薬自動払出装置89,980千円など）
貸付金		1	0	1	皆増	助産師修学資金貸付金 + 1,100千円
企業債償還金		738	946	▲ 207	▲ 21.9%	H30年度借入分（医療備品）の償還終了に伴う減 ▲ 405,336千円、R4年度借入分（医療情報システム更新業務など）の償還開始に伴う増+ 130,408千円
他会計借入金償還金		138	138	0	0%	
収支差引（補填額）		▲ 414	▲ 468	54	11.6%	

4. 資本的収入及び支出（税込み）

（2）塩江分院

単位：百万円

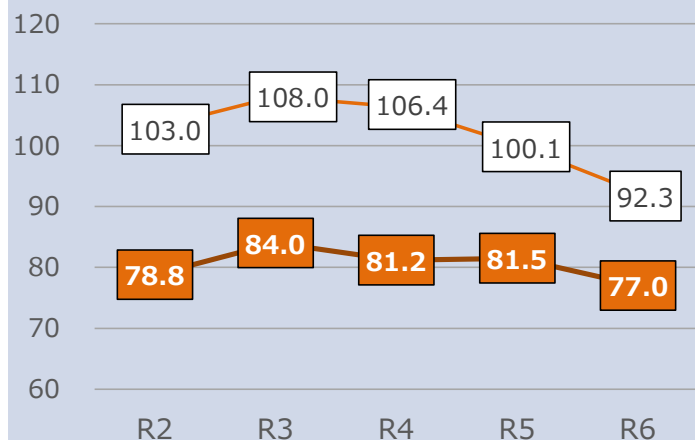
区 分	R 6	R 5	前年度増減比較		主な増減理由
			金額	率	
収入（塩江分院）	5	82	▲ 78	▲ 94.4%	
企業債	1	64	▲ 63	▲ 98.4%	
うち附属医療施設分	0	63	▲ 63	皆減	附属医療施設整備費の減少に伴う減 ▲ 62,800千円
出資金	0	13	▲ 13	皆減	
うち附属医療施設分	0	13	▲ 13	皆減	附属医療施設整備の実施設等に伴う減 ▲ 12,766千円
負担金交付金	4	3	1	18.8%	一般会計負担金の増 569千円
補助金	0	2	▲ 2	皆減	県補助金の減（患者輸送用車） ▲ 2,306千円
支出（塩江分院）	7	84	▲ 77	▲ 91.8%	
建設改良費	1	79	▲ 78	▲ 98.6%	
資産購入費	1	4	▲ 3	▲ 71.7%	介護支援ソフト 1,106千円
附属医療施設	0	52	▲ 52	皆減	道の駅エリア法面対策工事等負担金 ▲ 51,739千円
線越附属医療施設	0	24	▲ 24	皆減	道の駅エリア建築実施設計負担金 ▲ 23,900千円
企業債償還金	6	5	1	23.7%	R4年度借入分（歯科用チェアユニット）の償還開始に伴う増 + 925千円
収支差引（補填額）	▲ 2	▲ 2	▲ 1	▲ 29.0%	

5. 経営指標の推移

みんなの病院

経常収支比率

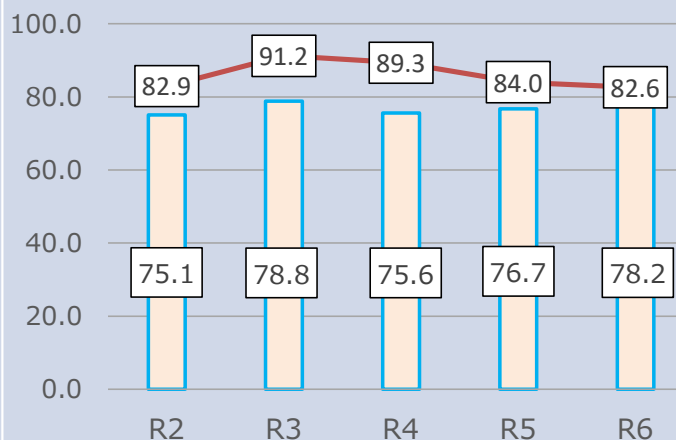
修正医業収支比率



経常収支比率は、一般会計繰入金、コロナ感染症に係る交付金が減少したことや、人件費や物価高騰に伴う材料費及び経費の増加により、5年度に比べ7.8ポイント低下し100%を下回った。修正医業収支比率（※）も前年度を4.5ポイント下回った。

病床利用率

病床利用率（地域包括ケア・感染・コロナ専用病床除く）

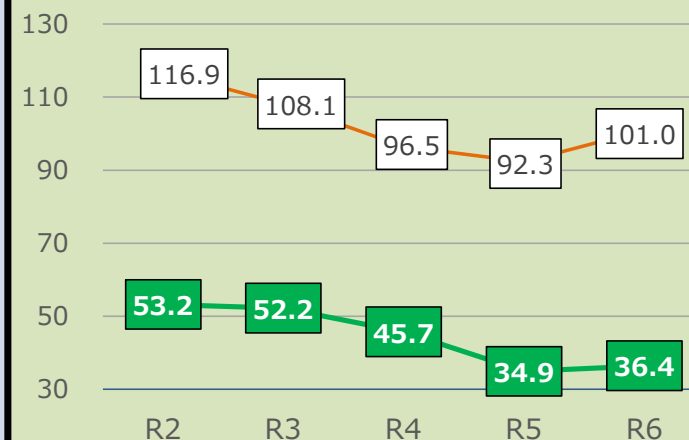


平均在院日数が長くなったことにより、5年度に比べ、1.5ポイント上昇した。

塩江分院

経常収支比率

修正医業収支比率



病床を休廃止して外来診療のみとしたことに伴う人員配置の見直しなどにより、経常収支比率・修正医業収支比率（※）が共に改善した。

※令和5年度から、長期前払消費税償却は医業費用に含む。なお、4年度以前についても比較のため同様に医業費用に含む。

■ 経常収支比率とは

経営の健全性を示す指標。比率が高いほど健全であり、100%を超えると健全経営であることを意味します。

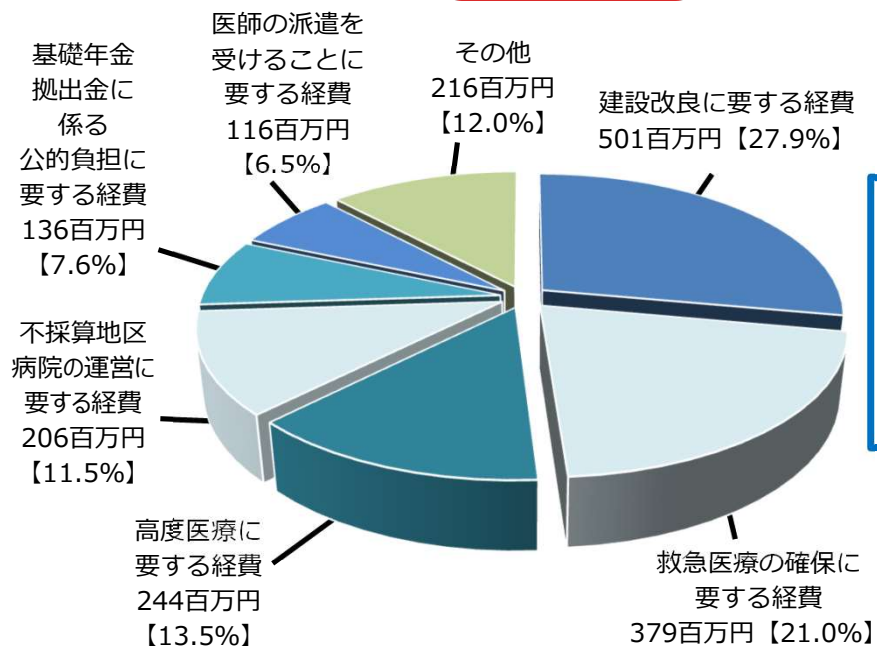
■ 修正医業収支比率とは

経営の収益性を示す指標。他会計繰入金などを除いて算定しており、比率が高いほど収益性が高く、100%を超えると独立採算であることを意味します。

6. 一般会計から病院事業会計への繰入金

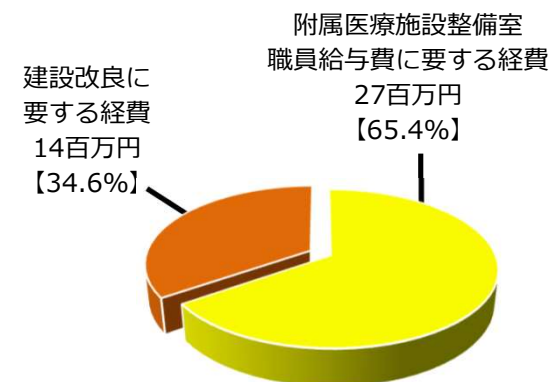
単位:百万円

決算	R 6 年度	R 5 年度	増減	R 7 予算	備 考
負担金	1,840	2,273	▲ 433	1,944	救急医療、建設改良、退職給与などに要する経費
出資金	0	13	▲ 13	0	附属医療施設整備事業などに要する経費
合 計	1,840	2,286	▲ 446	1,944	
繰出基準内	1,799	2,205	▲ 406	1,899	総務省通知
繰出基準外	41	81	▲ 40	46	地方交付税等措置対象外



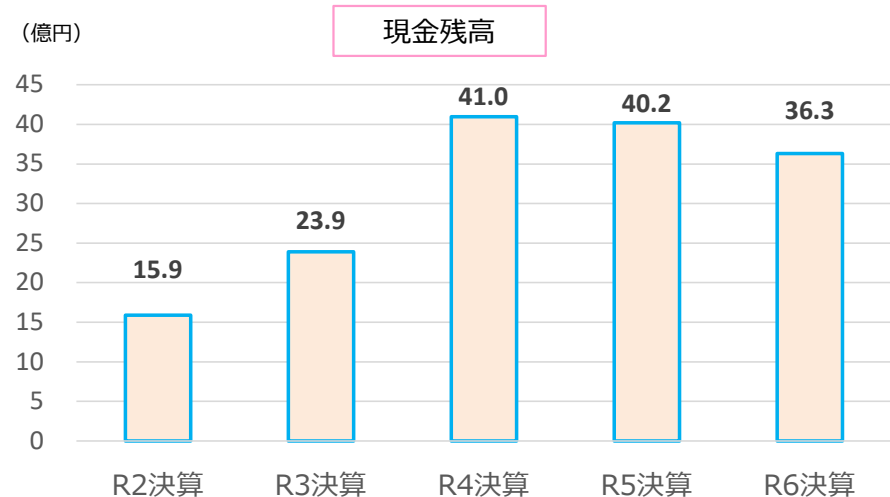
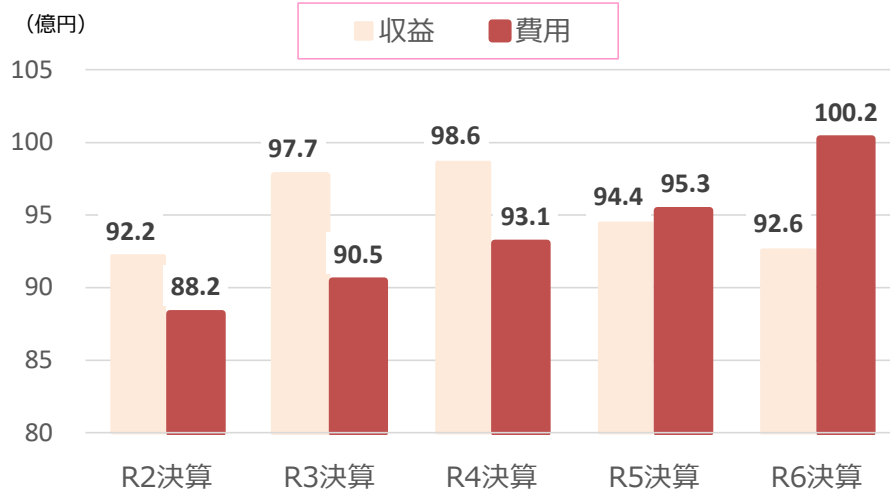
基準内
繰入の内訳
1,799百万円
【97.8%】
(R5【96.5%】)

基準外
繰入の内訳
41百万円
【2.2%】
(R5【3.5%】)



7. 病院事業収益・費用及び現金残高の推移

みんなの病院



塩江分院

